

顧問・指導者の抱える問題とその支援の在り方の考察
～初めて顧問をする指導者への支援の在り方を探る～

宮城県石巻商業高等学校

佐 藤 徹

1. 主題設定の理由

運動部を初めて指導する指導者が抱える問題や、困難に感じる事項について明らかにし、支援の実際や在り方について考察することで、各競技の活性化に繋げたいと考えた。特に、初めて顧問になった指導者への支援の在り方を探る。また、各連盟や、専門部等が行っている支援や研修における事例から他競技でも参考とできる内容について考察する。

2. 研究のねらい

指導者の抱える問題と、その支援の在り方の考察を通して、より効果的な指導者へのサポートを探ることで、競技の活性化に繋げる。

3. 研究の概要

(1) アンケート調査について

- ① 実施期間 平成31年2月～3月 実施
- ② 調査対象 宮城県高等学校運動部指導者 回答数 685

4. 結果と考察

(1) 競技者経験の有り無し 有り 412 (60.1%) 無し 271(39.6%) 他 2 (0.3%)

現在指導している競技について、競技者としての経験がある指導者（以下「経験あり」と略す）が約6割という結果であった。“経験あり”が、優れた指導ができるというわけではないが、競技者としての経験を指導に活かすことで、競技歴がない指導者（以下「経験なし」と略す）と比べて期待できる利点も少なくない。また、競技者としての経験の有無によって抱える悩みや課題の特徴についてもアンケートを基に考察していく。 “経験有り”が勤務校で指導を行えるよう、競技者歴（専門性）に配慮した指導者の配置がなされているかについては、約4割が競技経験のない種目を担当している状況から、必要があると考える。

(2) 現担当競技指導歴

1～3年 224(32.7%) 4～6年 111(16.2%) 7～9年 62(9.1%) 10年以上 285 (41.6%) 他 3 (0.4%)

3年を区切りとして指導歴を分けた。今回の回答では、1～3年と短い指導歴の指導者が約3割いることが分かったが、10年以上と長く指導をされている指導者も約4割であった。

(3) 現在、担当されている競技について

現在の競技を指導する際に困難だと感じている内容について（複数回答可3つまで）

	全体	経験有	経験無	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
1 競技力を高めるための技術指導	47.7%	31.1%	73.0%	71.4%	53.2%	45.2%	28.1%
2 生徒の意識を高めるための指導	44.4%	48.5%	38.4%	46.4%	44.1%	56.5%	40.7%
3 競技の特性を考慮した安全管理	10.7%	7.8%	14.8%	9.4%	17.1%	11.3%	8.8%
4 ルールや審判方法	10.1%	3.9%	19.6%	18.8%	15.3%	6.5%	1.8%
5 保護者との連携	8.8%	11.7%	4.4%	6.7%	9.0%	8.1%	10.5%
6 部員数の確保	44.8%	52.9%	32.5%	33.0%	43.2%	43.5%	55.4%
7 その他	10.5%	14.6%	4.4%	4.5%	7.2%	8.1%	16.5%

○ その他の記述より

- ・指導している競技の競技者としての経験が無いことによる指導上の困難さ。
- ・生徒数の減少や運動部離れ、加入率減少によるもの。

- ・退部や練習を休むなど、生徒の意識・責任感の低さ。
- ・指導している競技の中学校での廃部や中学校にその種目がないこと。
- ・校務多忙等による時間不足や調整の困難さ。
- ・設備不十分、震災の影響による環境整備。地域の理解が得られないこと。等

「競技力を高める技術指導」に対して“経験無し”の回答が73.0%、“経験有り”の回答が31.1%の大きな差が見られた。10年以上指導歴のある“経験無し”的場合でも、半数以上の指導者がこの点を困難に感じている。指導に長くあたっても継続して競技力を高めるための技術指導にご苦労されている様子がうかがえる。

また、困難だと感じる内容の回答項目数においては、“経験有り”的平均約1.7個に対して、“経験なし”では約1.9個と多い結果であった。“経験なし”がより多く悩みを抱えている様子がうかがえる。

「生徒の意識を高めるための指導」・「部員数の確保」について多くの指導者が困難であると考えている回答となった。以前、全国高等学校体育連盟研究大会で私たちの班は、卒業生やその保護者のインタビューを基に高等学校で部活動に参加することの意義などについての生の声を集め、新入生に伝えるという取り組みを行い、生徒の変容などについて検証し報告した。合同チームなど様々な取り組みがなされているが、今後さらなる対策が必要だと考えている。

(4) 現在、指導する際に参考としている内容（複数回答可3つまで）

	全体	経験有	経験無	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
1 同校前任者アドバイス	9.1%	5.3%	14.8%	15.2%	7.2%	9.7%	4.9%
2 同校前任者以外のアドバイス	23.1%	16.5%	33.2%	35.3%	27.9%	25.8%	11.2%
3 他校顧問のアドバイス	37.5%	36.4%	38.7%	36.2%	41.4%	38.7%	36.8%
4 指導に関する書籍 DVD 等	28.5%	34.7%	19.2%	22.8%	32.4%	35.5%	30.2%
5 研修会等への参加	14.0%	19.4%	5.5%	4.5%	13.5%	22.6%	20.0%
6 合同練習・試合等の実践	45.3%	52.2%	35.1%	33.0%	41.4%	53.2%	54.7%
7 インターネット・SNS の活用	17.4%	20.4%	12.9%	14.7%	22.5%	22.6%	16.1%
8 その他（具体的に）	10.9%	9.2%	13.7%	12.1%	10.8%	6.5%	10.5%

○その他の記述より

- ・経験豊富な顧問の存在に、大いに助けられている。
- ・横のつながりが強いことに助けられている。
- ・強豪校の実践から学ぶ。
- ・外部コーチ、外部指導者からの支援。
- ・上位大会を参考にする。
- ・前任者の実践の記録などを参考にする。
- ・部員同士で話し合う、アドバイスし合う。等

◆自由記述からの関連記述の抜粋

- ・競技経験のない、または経験の浅い顧問の先生にとっては合同練習会を開催するなどによる指導の実践場面での経験を増やすことが必要だと思う。
- ・未経験者の顧問の先生方に対する積極的な連携およびコミュニケーションが必要
- ・技術指導に不安を感じる部分もあるため、専門の顧問の先生方からアドバイスをいただける機会があるとありがたいです。（指導歴の短い指導者の記述）
- ・競技経験、指導経験のない若い先生も多く、練習試合の設定や指導などに苦労されています。年齢や立場的にも、声をかけ、コミュニケーションを取るようにしています。（指導歴の長い指導者の記述）

「合同練習・試合等の実践」との回答が最多となった。また、指導者としての経験年数が長いベテランの指導者や“経験有り”ほど傾向が強いことから、合同練習・練習試合などを充実させること、特に、経験の浅い指導者や“経験無し”が合同練習や練習試合に参加しやすいような取り組みや工夫が大切であると考えている。たとえば競技団体や専門部単位で企画・運営すること等により、これまで以上に多くの指導者が合同練習や練習試合から学べる機会を増やしていくことも必要だと考えられる。

全体で二番目に多かったのが「他校顧問のアドバイス」となったがこれは合同練習や練習試合のみならず、公式試合や顧問間の交流などから参考にできるものを得ていると考えられる。他校顧問のアドバイスについては指導歴の浅い指導者も参考としている割合が高い。個々の競技の特性を踏まえて指導力を向上させるためには、学校を超えた顧問間の連携をさらに深める工夫が大切だと感じた。アンケートの自由記述では、若手顧問がベテラン指導者からの支援・助言について期待する記述が見られ、また、逆にベテランの指導者が意識してコミュニケーションをとっている例もあった。

また、指導歴の短い顧問は、ベテランの指導者と比較して同校職員からのアドバイスを参考にしている傾向が見られた。別種目であってもより身近な指導者にアドバイスを求めていることがうかがえる。種目とは関係なく、それぞれの学校のルール、生徒の気質など学ぶべきことは多いと考える。このように競技を超えて運動部の指導について連携し、支えあうことも大切であると思う。指導の年数を経るにつれて、他校顧問や研修会、合同練習などから情報を得るなど、自ら動ける経験の長い指導者は、働きかける幅が広がる。逆に経験が少ない指導者は狭い範囲であるができることから学ぼうと工夫している様子がうかがえる結果となった。

(5) 合同練習・試合の実施状況や工夫などについて 合同練習・練習試合の年間開催回数

	全体	競技経験有	競技経験無	1~3年	4~6年	7~9年	10年以上
平均回数	14.7回	17.3回	10.7回	10.5回	15.9回	16.7回	17.2回

◆自由記述からの関連記述の抜粋

- ・私自身は、競技経験もないまま、ここまでできてしまい、大変申し訳なく思っているが、卒業生の部員が放課後や土曜日の練習に度々来てくれており、大変ありがたく思う。公立高校の場合、異動等があり、その面を考えると、卒業生が外部指導者と位置づけられるようになれば、部活動の存続・運営上、今後の見通しもたつかと思う。
- ・初めての顧問であれば、右も左もわからずに戸惑うのは当然で、練習試合の計画もままならない状態となるので、専門部での対応を考慮してあげるシステムが必要ではないだろうか。

顧問としての経験年数が増えるほど合同練習・練習試合の年間参加回数が多いという結果となった。上記(4)の結果も併せて考えると、合同練習や練習試合を活性化し、経験年数の短い指導者が参加しやすくすることの大切さが改めて感じられた。また、“経験無し”は“経験有り”に比べて6割程度の実施回数にとどまった。

“経験無し”または指導歴の浅い指導者に対しては専門部などが企画した練習試合や合同練習を開催したり、指導者研修会で顧問間の交流を図ったりすることで、コミュニケーションをとるきっかけを作り、互いに連絡を取り合えるような人間関係を構築していくことも大切ではないだろうか。意欲的に取り組んでもらえるきっかけを作る活動として専門部が行つていけたらよいと考える。また、本来外部指導者やコーチなどの協力を積極的に受けたい、“経験無し”や経験の浅い指導者ほどこのような方々と繋がることも難しいことが懸念される。卒業生に指導の協力を仰ぐ場合でも、顧問が替わると関係が切れてしまうこともある。顧問の引き継ぎは、このようなことに注意して丁寧に行つたり、専門部などでこのような部分をフォローしたりする体制について考えていく必要があるのではないだろうか。

(6) 合同練習・練習試合をより活性化させるために必要だと考えること。(複数回答可3つまで)

	全体	経験有	経験無	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
1.顧問間のコミュニケーション	62.5%	60.4%	65.7%	60.7%	66.7%	67.7%	61.4%
2.審判員の普及	6.6%	5.8%	7.0%	7.6%	6.3%	6.5%	6.0%
3.システムの制度化	12.7%	10.7%	15.9%	18.8%	11.7%	17.7%	7.4%
4.経済的支援	35.9%	39.6%	30.6%	33.5%	36.9%	37.1%	37.2%
5.その他	15.0%	15.8%	13.7%	12.9%	17.1%	14.5%	15.8%

合同練習・練習試合をより活性化させるためには、「顧問間のコミュニケーション」が一番大切だと考えられていることがわかった。競技経験の有無や経験年数による大きな差は無い。初めて顧問となる指導者は顧問間の人間関係もない状態からのスタートであり、コミュニケーションをとりづらいことも懸念される。「知らないこと」による遠慮を排除したい。経験の浅い指導者はベテランの指導者と比較して、「システムの制度化」を望んでいることがわかった。経験の浅い指導者、初めて指導に当たる顧問を支えるという意味では、合同練習・練習試合のシステム化、例えは専門部が主催することにより、合同練習会などが、初めてでも参加しやすいものと捉えてもらえることも、有効な手立てになると考える。また、これがきっかけとなり、顧問間の連携も深めることができれば、さらなる合同練習・練習試合の充実なども期待でき、支援としての役割を十分果たせるものと考える。「経済的支援」を望む回答も競技経験の有無や指導歴にかかわらず多いものとなった。生徒や保護者に負担をかけたくないということがあると思うが、今後の支援のあり方についてどのような方法があるか検討するとともに、各専門部や学校レベルでの実施例等をさらに調査していきたいと考える。

(7) 担当されている種目の研修や講習実態について次の質問にお答えください。(複数回答可3つまで)
講演会・研修会等の参加の有無とその内容 (全体の回答 ある 63.8% ない 35.6% 他 0.6%)

	全体	経験有	経験無	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
1 競技者向け	24.1%	27.9%	18.5%	15.2%	20.7%	29.0%	31.6%
2 指導者向け	37.1%	51.2%	15.5%	15.6%	39.6%	40.3%	52.6%
3 部活動の運営	4.1%	4.9%	3.0%	2.2%	1.8%	3.2%	6.7%
4 ルール・審判講習	24.1%	28.9%	16.6%	14.7%	26.1%	32.3%	29.1%
5 栄養学の講習会	5.5%	8.3%	1.5%	1.3%	2.7%	8.1%	9.5%
6 傷害予防・治療	5.3%	8.0%	1.1%	1.8%	3.6%	4.8%	8.8%
7 スポーツ心理	8.6%	10.7%	5.2%	3.6%	9.0%	8.1%	12.6%
8 蘇生法や熱中症など	3.8%	4.6%	2.6%	1.3%	0.9%	6.5%	6.3%
9 その他	0.9%	1.0%	0.7%	0%	1.8%	1.6%	1.1%

指導歴が長いほどより多くの講演会・研修会等に参加してきていることがわかる。また、“経験有り”的方が“経験無し”より全ての項目においてより多く参加している。このことから、指導歴の短い指導者や“経験無し”が魅力を感じ、参加することによって意義を感じることができるような内容の講演会・講習会を企画する工夫が大切である。また、この中で特に「指導者向けの講習」は、競技経験の無い指導者の3倍以上の参加数となった。“経験有り”が多く参加している「指導者向け講習」等は、部活動を指導していく上でより専門的に競技力を高め、内容を充実させていくことをターゲットにした内容であると考えられる。講習内容を“経験無し”や指導歴の短い指導者にとって分かりやすいものになるような基本的なものも数多く準備し、その趣旨がわかりやすい呼びかけなど工夫しながら、参加しやすいものにしていくことが必要だと考える。

(8)インターネットやSNSの利用の実態（複数回答可3つまで）

	全体	経験有	経験無	1~3年	4~6年	7~9年	10年以上
1 合同練習や練習試合の情報交換	26.7%	30.6%	20.7%	21.0%	29.7%	30.6%	29.5%
2 ルールや審判上の情報を得ている	21.5%	19.7%	24.4%	24.6%	24.3%	19.4%	18.6%
3 指導技術を得ている	41.6%	47.6%	33.8%	35.3%	49.5%	50.0%	42.1%
4 栄養学や運動生理学の情報	6.1%	6.8%	5.2%	5.8%	7.2%	6.5%	6.0%
5 情報を発信している	3.2%	3.6%	2.6%	1.8%	2.7%	1.6%	4.9%
6 その他	15.8%	13.6%	19.2%	16.1%	11.7%	12.9%	17.2%

◆自由記述からの関連記述の抜粋

- ・悩みを話し合えるような専門部の雰囲気が大切。
- ・情報交換を通して、各学校でどのような取り組みをしているかを可視化し、お互いの活動に关心を持ちリスクペクトできることが大切。
- ・手段であるインターネットやSNSの活用もその目的が大切になってくる。

「合同練習や練習試合の情報交換」は、“経験無し”や経験の浅い指導者では低い回答率、それ以外では多いという結果になった。合同練習や練習試合の情報交換を円滑にするためには、経験の浅い顧問（特に1年から3年目の指導者）や競技者経験のない顧問にも情報交換の機会を広めていくことが望まれる。個人情報である連絡先を公開することには抵抗がある指導者も多いと思う。しかし、勤務校への電話連絡だけではなかなか円滑に連絡を取り合う事ができない。SNSの活用などでより円滑に連携を進めることができると考える。

「ルールや審判上の情報を得ている」指導者は、“経験無し”や経験の浅い指導者で多い回答となった。このことから、“経験無し”または指導歴の浅い指導者向けの内容を意識して情報を発信していく工夫が必要ではないかと考えている。例えば、より詳細な解説を加えることや双方向での情報交換を可能とすることなどである。

「情報を発信している」指導者は比較的少ないことがわかった。情報を発信する上では、内容の精査や掲載対象となる選手等のプライバシーなど様々な配慮が必要である。また、自チームの練習方法を公開することに抵抗があることも考えられる。しかし、ベテランの指導者から若手指導者へのメッセージとしても、より積極的な活用に期待したい。専門部の働きかけで情報を発信することを促すことや、意見交換をすることでよりよい指導につなげることも期待できる。ベテランから若手へ、若手からベテランへとどちらからも連絡を取りやすい雰囲気作りも大切である。

(9) 顧問間の交流について若手顧問の指導者に対して期待することは何ですか。（複数回答可）

	全体	経験有	経験無	1~3年	4~6年	7~9年	10年以上
1 競技運営	34.9%	37.9%	30.6%	24.1%	24.3%	43.5%	46.0%
2 審判の資格をとって	15.9%	22.8%	5.5%	5.4%	9.0%	19.4%	26.3%
3 コミュニケーション	20.7%	22.1%	18.8%	18.8%	18.9%	17.7%	23.9%
4 分担の明確化制度化	12.7%	10.4%	16.2%	20.1%	14.4%	14.5%	5.6%
5 その他	23.6%	22.6%	25.1%	22.8%	26.1%	16.1%	24.9%

○他の記述より

- ・聞いて覚えていってほしい。　・競技を実際にやってみて欲しい。
- ・若手の競技経験者が採用され、顧問として技術面や大会運営面で大いに活躍していただくことを望む。
- ・積極的に関わって欲しいとは思うが、競技経験のない若手顧問が遠慮がちになるのもやむを得ないと思う。

ベテランの指導者になるほど若手顧問に「競技運営」に携わってほしいと考えている。また、審判の資格を取ってほしいという選択肢についても同様の傾向が見られた。また、若手ほど、「分担の明確化・制度化」を望んでいる。これは、ベテランの指導者であれば全体を見ながら動くことや、連携することもできると思うが、経験の浅い指導者ほど運営に関するために、まず、自分自身の分担する職務について理解し、役割をこなし、できることから一つずつ、運営に携わっていきたいという考え方の表れと考える。自ら進んで行動する意識に加えて、分担の明確化・制度化を進め、初めての顧問でも積極的に運営に携われるような工夫が必要と考える。

(10) ベテラン顧問の指導者に期待していることはなんですか。（複数回答可）

	全体	経験有	経験無	1～3年	4～6年	7～9年	10年以上
1 競技運営	19.0%	22.1%	14.4%	12.5%	11.7%	24.2%	26.0%
2 審判の資格をとって	2.6%	2.7%	2.6%	2.2%	0.9%	4.8%	3.2%
3 コミュニケーション	22.9%	20.6%	26.6%	24.1%	23.4%	27.4%	21.1%
4 分担の明確化制度化	25.7%	25.5%	26.2%	35.3%	25.2%	29.0%	17.5%
5 その他	30.2%	29.6%	31.0%	28.6%	31.5%	25.8%	31.9%

○その他の記述より

- ・若手顧問に対して運営方法の伝授・運営、審判法についてのアドバイス
- ・リーダー中心に、組織として円滑な行事運営ができれば良い。
- ・優しく丁寧に対応頂いており感謝しかない。

自分自身よりも経験のある指導者への期待として「分担の明確化・制度化」が高い値となった。特に1～3年の経験年数の指導者の三分の一がこの点をあげている。また、すべての経験年数において高い値となった。加えてコミュニケーションをより積極的に望む割合も高い。コミュニケーションを取りながら経験年数が短い指導者も運営に携われるような役割分担が望まれる。

5. 研究のまとめ

今回のアンケートからは指導歴の短い、また、“経験無し”が抱える問題が“経験有り”や指導歴の長い場合と比べてより深刻である様子が見えてきた。その解決方法の一つとして指導者間のコミュニケーションが大切に考えられていることがわかった。しかし、多忙感やベテラン指導者への遠慮など、なかなか教えを請うことが難しいのもまた事実である。協会や専門部がコミュニケーションのきっかけをとれるようにすることが大切であると考える。例えば、講習や研修で、少人数のワークグループや分科会を設定することで、お互いが抱える問題について、気軽に、より具体的に相談できるようにすることで、支えあえる機会および今後の連携のきっかけを作りたい。さらには、顧問間の関係がその後の練習試合や合同練習などの活性化にもつながることに期待したい。また、経験者が指導者を務めることが、競技力向上や競技の特性を考慮した安全管理、ルールや審判方法などの面で指導の困難さを感じることが少なく、より、スムーズに指導にあたれる様子もアンケートから見えてきた。このことから、経験者（選手）が指導者となる流れをより積極的に整備していくことや、より柔軟な外部指導者のシステムを構築していくことが有効と考える。